

宇陀市大宇陀区松山地区

「大宇陀まちおこしの会」



宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区
 近鉄橿原駅より南へ約5km
 間松山地区まちづくりセンター
 「千軒舎」TEL 0745-87-2274
 第36回かぎろひを観る会
 日12/26(水)
 午前4:00~夜明けまで
 所かぎろひの丘万葉公園
 (宇陀市大宇陀区迫間25)
 ※葛湯のふるまいなど有。
 問大宇陀観光協会
 TEL 0745-83-2251

「奈良・もてなしの心推進県民会議」では、生き生きとした生活や交流を育むまちづくりを実践している地区を、「もてなしのまちづくりモデル地区」として認定。
 宇陀市松山地区はその一つです。



「おもてなしの心でお迎えます」と大宇陀まちおこしの会のメンバーら。(右から会長の森本さん、事務局長の裏さん)



さりげない歓迎が松山流
 誇りと美風が息づく町

かつて城下町として栄えた宇陀市大宇陀区松山地区。今も栄華をとどめる重厚な商家などが軒を連ねます。去年、宇陀松山の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、さらに多くの来訪者を迎えるようになりました。

大宇陀の代表的イベント「かぎろひを観る会」は、今年三十六回目。約千人が毎年、夜明け前の光景を見守ります。「町に愛着があるから、見に来て、といえる。誇りがなければ、おもてなしの心は生まれませんよね」と話すのは、「大宇陀まちおこしの会」(会長・森本光俊さん)の裏宗久事務局長。毎年夏に開かれる、住民主導の町並みライトアップイベントでは、訪れ

る人に自宅を公開する住民も増えているということです。「光に照らされた民家を見ながら、お年寄りが孫に『きれいやねえ。よその町に来たみたい』といって目を細めている。イベントや情報発信は、住民が町の良さを見直すことにつながるようです」と、交流がもたらす活性化にメンバーらは期待を寄せています。

長い町の歴史は、住民共通の気風を作り上げてきました。通りの打ち水や掃除は入念に。来訪者が散策していれば、車はクラクションを控えてそつと脇を過ぎていきます。「さりげないおもてなしこそ大切にしたのです」(森本会長)。

へ確かに伝承されています。



和と吉野・伊勢を結ぶ交差点の要衝として栄えた宇陀松山の町並み。静かな町並みの路のせせらぎが心地よく響く。



よく晴れた冬の夜明け前に、最初に現れる陽光が「かぎろひ」。その情景を万葉歌人の柿本人麻呂が詠んだとされる歌も、万葉集に残る。

「薬の館」にある唐破風付きの看板。松山地区のシンボリックな存在となっている。